

B-37 植物染色におけるタンニンの効果  
共立女子大家政 柏木希介

目的 植物染色において花を染料に用いる場合以外は、殆んどの場合タンニンが重要な役割を有している。そのタンニンの効果を染色のプロセスや、染料の色について解明するために種々の実験を行った。

方法 各種染料に含まれているタンニンを主に<sup>カワ</sup>革粉法で定量し、ついで色々なスポットテストに基づいて基本的な2種の型に分類する。植物色素のみによる染色とタンニンを含む染料による染色との比較を試みる。条件を変化させた場合の染布の測色を行ない、その結果と染料組成との関係について考察する。

結果 タンニンの種類、すなわち加水分解型か縮合型かによって染色の上から種々の相違が観察された。一般にタンニンが存在すると染布の彩度は下がった傾向がある。合成染料による染色と草木染との相違はタンニンに由来している事が多い。